

事例7

< 事例概要 >

出血

- ① 60 歳代、悪性リンパ腫治療後の二次性急性骨髄性白血病、胸膜炎の患者。
- ② 化学療法のため、中心静脈カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 21.8 kg/m²。血小板2万台/ μ l。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 右鎖骨下より超音波を用いず穿刺。穿刺後ガイドワイヤーを挿入できず、3回目でガイドワイヤーとカテーテルを挿入したが多量の逆血を認め、鎖骨下動脈内の誤留置と判断し抜去。用手圧迫中に呼吸困難感あり、X線で縦隔血腫と右胸腔内出血を認め、心臓血管外科に応援要請。胸腔ドレーンを挿入、皮膚切開し鎖骨下動脈を直接圧迫したが出血部位が不明。穿刺から約4時間半後に死亡。
- ⑤ 死因は、右鎖骨下動脈誤留置後のカテーテル抜去に伴う縦隔内出血と右胸腔内出血、大量血腫に伴う無気肺、呼吸不全。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有（血腫2700g）。